

# 和音

京都大原記念病院グループ

KYOTO OHARA HUMAN CARE NETWORK

No.245

「和音」編集室

京都大原記念病院グループ

〒601-1246

京都市左京区大原井出町

164番地

TEL (075)744-3160

FAX (075)744-3161

Mail kyotoohara-hp@kyotoohara.gr.jp

<https://www.kyotoohara.or.jp>

2020年

2月

FEBRUARY

## 地域の“共生社会”を創出へ

2015年に構想実現に向けて始動して約5年。地元諸団体、京都府・市関係者などと協議を重ね準備を進めてきた「大原健幸の郷」が、いよいよ3月にオープンします。地域の「健康増進」「コミュニティ活性化」の機能を果たし、誰もが生涯にわたり、共に安心して生き生きと暮らせる“共生社会”的な創出を目指し、健康増進プログラムや、ワークショップなどを展開していきます。



オープンを待つばかりとなった大原健幸の郷

3月  
大原健幸の郷  
オープン

## 運動と食生活を支援

▶▶多世代交流フロアも併設

建物は地上2階建て。1階はトレッドミルやコグニバイク、レッドコードなどの機器を整備。セラピスト(※)、トレーナーらが提案する運動や、自主トレーニングにご利用いただけるスペースです。同フロア南側は、ラウンジとキッチンを整備。料理教室や、栄養・食生活改善プログラムなどを実施するほか、借景を眺めながら季節をお楽しみいただける団らんスペースとなります。

2階は多世代交流フロア。大原健幸の郷の主催行事だけでなく、利用者主体の

地域行事等の会場としてもご利用いただけます。これらは、「会員制(月額・年額)」で

の運営を予定しています。

リハビリ医療で培った経験に基づく「根拠」あるプログラムを実施予定です。口コモティブシンドローム、フレイルなどの予防を主な目的とした「総合運動」「栄養・食生活改善」「口腔ケア」プログラムのほか、「農業活動」も準備を進めています。

基本となるのは「総合運動」プログラム。運動の目的は、筋力アップ、ダイエットなど人それぞれです。目的に合わせて集団、個別でのトレーニングに取り組んでいただけます。希望者には定期的に開催する体力測定で運動の成果を「見える化」し、効果を意識しながら取り組んでいただきます。

健康、介護予防の基本は食べることであり、運動だけで効果は期待できません。「栄養・食生活改善」プログラムでは、館内のキッチンなども活用し、管理栄養士が「バランスの良い食生活」を送れるようお手伝いいたします。

そして「口腔ケア」。食べたり話したりと



グリーンファームにて

菜の花 黄色い春へ準備着々



野原一面を鮮やかな黄色に染める風景が春の風物詩となってきている大原地域！ 京都大原記念病院グループの農園(グリーンファーム)内でも、春に向けて菜の花の準備を開始しています。

品種は観賞用で切り花や香りを楽しんでいただく予定で育てています。(総務部 榎並宏之)

# リハ医療の実績基に

▶▶ 2月下旬に自由見学期間



いった口を動かす能力(口腔機能)が落ちると、食べ物を噛みくだいて呑みこむ「嚥下」がスムーズにできなくなります。それが原因で栄養不足が続くと、体全体に悪影響を及ぼします。口の中の清潔を保ち、口腔機能を維持するためにできるトレーニングを提案していきます。

大原健幸の郷の目的は、誰もが生涯にわたり、共に安心して生き生きと暮らせる「共生社会」を創出することです。そのためには、超高齢社会から、生涯現役社会を目指す必要があります。私たちは、誰もが生涯にわたり自分が望む方法で社会と関わりながら生き続けることができる社会こそが、「生涯現役社会」と考えます。そのための基本は、医療がもたらす「体」の健康と、家族や地域など社会とのつながりがもたらす「心」の健康です。京都大原記念病院グループが培ったリハビリ医療の経験に基づく「根拠」ある健康増進プログラム。地域文化等も取り入れ幅広い世代にご参加いただけるワークショップや、利用者が主体の活動を通じた多世代交流。こうした側面から、地域の体と心の健康に貢献したいと考えています。

2月20日～29日の間はプレオープン期間としてご自由にご見学いただけるほか、マシンや体組成計測、療法士による運動アドバイスの無料体験(事前予約制)などを実

施します。ぜひお気軽にご利用ください。京都大原記念病院グループとしても初の試みとなりますので、温かいご支援をいただきます



食のスペース(上)と運動フロア(下)の想像図



大原健幸の郷の運営について協議するスタッフ

念病院グループが培ったリハビリ医療の経験に基づく「根拠」ある健康増進プログラム。地域文化等も取り入れ幅広い世代にご参加いただけるワークショップや、利用者が主体の活動を通じた多世代交流。こうした側面から、地域の体と心の健康に貢献したいと考えています。

2月20日～29日の間はプレオープン期間としてご自由にご見学いただけるほか、マシンや体組成計測、療法士による運動アドバイスの無料体験(事前予約制)などを実

## ご利用者と創る施設に

三橋尚志・京都大原記念病院副院長の話 大原健幸の郷では、リハビリ医療で培った経験に基づく「根拠」あるプログラムを中心に、様々なワークショップなども実施します。ここは病院ではなく、医療者から「こうしなさい」と押し付ける活動は一つもありません。地域住民の皆さまの健康を支え、地域を活性化するモデルケースへ。地域住民の皆さまをはじめ、ご利用いただく皆さんとともに作り上げて行きたいと考えています。

## 共生型まちづくり期待

井尻訓生・京都府健康福祉部副部長の話 京都府では、子どもから高齢者まで誰もが安心していきいきと暮らせる共生社会の実現に向けた取り組みを進めています。

大原健幸の郷は、リハビリ・健康づくりのノウハウや地域の農業等を活かした「健康づくり機能」と子どもから高齢者まで多世代が集まる「コミュニティづくり機能」を柱に地域づくりを推進する拠点施設として整備されました。府民の皆様に広く活用いただき、多世代交流による共生型まちづくりが一層進むことを期待しております。

## 記念シンポジウム開催

2月18日、健幸の郷で

来る2020年2月18日(火)にはプレオープンイベントとして「高齢者共生型まちづくりシンポジウム」を開催します。イベントは二部構成で、第一部を京都大原記念病院グループ、第二部を京都府が主催します。第一部では大阪医科大学リハビリテーション医学教室の佐浦隆一教授を講師に招き、「はじめませんか フレイル予防 目指そう! 健康長寿」と題して講演いただきます。第二部では全国

ようお願い申し上げます。[施設に関する問い合わせ]大原健幸の郷 075(744)3610。最新情報は同ウェブサイト、フェイスブックをご覧ください。

健  
大  
幸  
原  
の  
郷



ウェブサイト



Facebook

# 「あなたらしく」のためにできるすべてを。

私たちがチーム一丸となって  
寄り添い、歩みあい、  
その人らしい人生として輝かせる

令和初の年頭に際し、京都大原記念病院はスローガンを一新しました。垣田清人院長がスローガンに込めた思いを語りました。



京都大原記念病院は、回復期リハビリテーション病院として、「自立支援」「介護負担の軽減」「安心の提供」をリハビリテーションの目的と定めて患者様の社会復帰を支援して参りました。私たちの行動は全て、脳卒中など突然の病に戸惑いながらも、目の前の現実を受け入れ

前を向く患者様の生活が、より「その人らしい」ものとなることを目指すものです。

そのために何より大切なのは、特別なことではなく、医師を中心とした看護師、セラピスト、介護職、管理栄養士、医療ソーシャルワーカーなど多職種がチームで向き合うことと考えて取り組んで参りました。新年を迎えるにあたり、そうした想いや決意を今一度胸に刻み日々実践していくべく新たなスローガンを明文化しました。



大切なのは多職種がチームで向き合うこと(左から3人目が垣田院長)

当院は患者様、ご家族、連携医療機関、地域の皆様などから寄せられる多くのご支援で成り立っています。今後とも変わらぬご支援、ご指導をいただきましようお願いいたします。

京都大原記念病院 院長  
垣田清人

クリスマス会を楽しむ患者様



**一緒に飾り作り** リハ1病棟

2019年12月23日、京都大原記念病院リハ1病棟でクリスマス会を開催しました。季節を感じていただくために、日頃からレクリエーションを実施していますが、今回はリハビリの合間に縫って職員と一緒に約2ヵ月前から準備や飾りつけを行いました。

準備は手指巧緻性のリハビリを目的に、お花の紙を広げる作業をしていただき、ツリーやトナカイ等の飾りを作成しました。準備をする中で患者様同士のコミュニケーションの輪が広がり、レクリエーション以外でもお話しする機会が増えました。飾りつけ後は、患者様と達成感を味わう事ができました。

当日は新人看護師・介護士の2人が可愛らしいサンタクロース姿で登場。みんなでピアノ演奏にあわせクリスマスソングを歌い、職員からはハンドベル演奏をしました。また、手作りピングーム大会を実施し、作成した景品をプレゼント。最後に職員の手作りカードを渡した時は、涙する患者様もおられました。

今後もリハビリを兼ねた毎月の飾り付けに力を入れていきたいと思います。ぜひリハ1病棟にお越しください。

(リハ1病棟 高橋佑輔)

**メマス樂しいひと時**

**歌声にうつとり** 大原ホーム

昨年も混声合唱団ノイエ・ハルモニアの皆様をお招きし、クリスマスコンサートを開催しました。祝日だった12月23日に毎年開催していたコンサートは、平成が幕を閉じて平日となったため、クリスマスには10日早い14日(土)の開催となりました。今回も80名を超えるご利用者にご参加いただき、楽しいひと時を過ごすことができました。



ノイエ・ハルモニアの歌のプレゼントにご利用者も感激

初めに広田大右団長が「あわてんぼうのサンタクロース」として挨拶をすると、会場は一気にクリスマスの雰囲気に包まれました。今年で17回目を迎えるコンサートですが、毎年のことながらノイエ・ハルモニアの皆様の奏でるハーモニーに酔いしれる人が多く、感極まって涙するご利用者も多く、心温まる素敵なお歌のクリスマスプレゼントをいただきました。



今後も混声合唱団ノイエ・ハルモニアの皆様と一緒にこのクリスマスコンサートを継続して盛り上げていきたいと考えています。

(大原ホーム 坂田善基)

# 退院後の・・・生活、想像して・・・援助

第7回京都府作業療法学会の大会長に、京都大原記念病院の江川大地作業療法士が就任しました。学会は令和2(2020)年2月16日(日)に佛教大学二条キャンパスで開催されます。府内医療機関の作業療法士が加入する京都府作業療法士会が毎年1回主催しており、昨年は約300名の参加がありました。「和音」誌では大会長就任を記念し、「令和 新しい時代へ～共に成長しようOTのチカラ～」とテーマに掲げた想いについて江川大会長に話を聞きました。



近年の回復期リハビリテーション病棟の増加もあり、京都府下でも医療機関に属する作業療法士の若返りをひしひしと感じます。現場の一線で活躍するスタッフだけでなく、後身を育成するスタッフも若手が増加しました。未来を担う若い人材が増える

## 第7回京都府作業療法学会 江川大会長に聞く

ことは喜ばしい一方で、限られた経験のなかで教育などに取り組むには難しさもあります。そうした背景もあり、同大会は若手が



第7回京都府作業療法学会の大会長に就任し抱負を語る江川大地さん

気軽に参加できることを念頭にプログラムを構成しました。ワークショップを通じて互いに研鑽するとともに、横のつながりを構築する機会になることを期待しています。

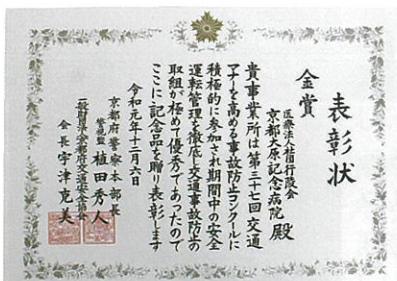
所属機関や個人によって考え方は異なると思いますが、リハビリテーションの目的は「その人らしい在宅生活」を目指して支援することにあると考えます。脳卒中等で後遺症が現れた時、まず立てるようになることは重要です。一方で、立ててもその人らしい生活を送れるとは言い切れません。作業療法士は、特に日常生活や、職業復帰などを見据えた「生活動作」を中心とした分野を担います。患者様が完全にそうした動きを取り戻すのは難しいですが、今置かれた状況でその人らしく在宅で生きる選択肢を見つけられるよう援助することが、作業療法士として最大の支援になると考えています。そのためには退院後の生活を想像する力も必要です。

そうした力を養い、実践していくためにはどうすればよいか。本大会での学びを通じ「OTとして見るべき視点」をともに学び、参加者それぞれが「OTのチカラ」を存分に発揮できる機会となることを目指します。

## OTのチカラ、発揮する契機に

### 交通マナー★金賞に輝く セーフティラリー

令和元年に実施されたセーフティラリー「交通マナーを高める事故防止コンクール」に、京都大原記念病院グループが栄えある金賞を受賞しました。さる12月6日に南区の京都テルサにおいて、京都府警察本部長、一般社団法人京都府交通安全協会長連名の表彰状を、グループを代表して受け参りました。



コンクールでの金賞獲得を示す表彰状

コンクールは事業所に所属するドライバーが5人でチームを作り、7月から9月を実施期間として無事故無違反を目指すというもので、今回が37回目になります。当グループからは49チームが参加しました。

期間中の安全運転管理の徹底と、交通事故防止の取り組みが極めて優秀との評価

で表彰いただけた事になり、光栄に思いました。この表彰を機に、公用車・マイカーに関係なくさらなる交通事故防止に努め、安全な地域づくりを目指していきたいと考えています。  
(安全対策室 松本克也)

### 犬と触れ合い笑顔 I番館でセラピー

ライフピア八瀬大原I番館では、11月27日にドッグセラピーを開催しました。3月に行ったところ大好評だったため、今回も「NPO法人アンビシャス様」にご協力頂きました。

今回が初参加のご入居者も多く、数日前から「わんちゃん来るのはいつやったっけ」と首を長くして待っておられました。

大小合わせて7匹の犬たちが来てくれました。ご入居者は、なでたり、話しかけたり、写真を撮ったり。その愛らしさにすっかり癒



犬と触れ合ってご入居者も大満足

されました。ご入居者35名、ご家族6名の参加で会場は大盛況。「飼い犬を思い出して泣きそうや」と喜ばれたり、いつも体調が悪くふさぎがちな方も「かわいくてしかたがないです」と満面の笑みでした。犬たちを通して、ボランティアの方との交流や、ご入居者同士の会話も弾んでいました。

アンビシャス様・わんちゃんたち、本当にありがとうございました。次回は暖かい季節に第3弾を企画したいと思います。

(八瀬大原I番館 高木哲也)

### 京都大原記念病院グループウェブサイト 公式Facebookのご案内

グループの取り組みなど日々、更新中!  
自然災害等により何らかの影響が生じた場合は  
こちらで情報発信します。ぜひこちらもご覧ください!



ウェブサイト



Facebook